



時代を通じて変わらないもの
—それを人は伝承と呼ぶ。
平野地区、ニュータウンの麓
にひっそりと佇む多太神社。由
緒は市内で最も古く、平安時代
の書物「延喜式」にはすでに記
されている。
はるか昔から続けられてきた
「秋季大祭」。3年に一度、平野、
東多田、矢間、新田の4地区か
ら太鼓台とだんじりが「宮入」
する。
10月24日、能勢電鉄「多田」
駅前が法被姿で溢れていた。一
堂に会し、氏神の祀られる神社
へと向かう。
日が暮れるのを待ち、一気に
境内へと駆け上がる。繰り上げ
られる神前での「練り」。一目
見ようと訪れた人たちに勇姿を
披露する。その光景は先人に勝
るとも劣らない。祭りを取り仕
切る消防分団長の「手打ちの儀」
が終幕を告げる。
圧巻という言葉がふさわしい
宮入。かつては、7地区が担っ
ていた。昭和40年代ごろからの
宅地造成により、人口は激増。
それでも担ぎ手は減っていく。
ニュータウンには存在しない
消防団。誰もが担ぎ手になれる
ことはあまり知られていない。
「伝承」は不変。守る人間が
変わらなければいけない。

多太神社宮入

Caption
1_多太神社の宮元、平野地区。「差せ！」の掛け声に1ト以上の太鼓台を差し上げる 2,3_宮入は約8時間の長旅。子どもたちの囃子太鼓が練り歩きの鍵となる。年長の経験者が指導 4_何千個もの握り飯を用意する自治会有志の女性たち。表舞台に出ることはない 5_当日早朝から消防団員らが準備。藤づるを叩いて繊維状にし、太鼓台の台座を縛る 6,7,8,9_左から順に矢間、新田、東多田、平野の担ぎ手と曳き手 10_宮入が国道173号を止める 11_境内には1,000人以上が集まった 12_新田だんじりの練り回し。最高潮の会場が曳き手を煽る 13,14_東多田の暴れ回る獅子舞に棒ささらを鳴らす。さらわれた子どもは泣きじゃくる

